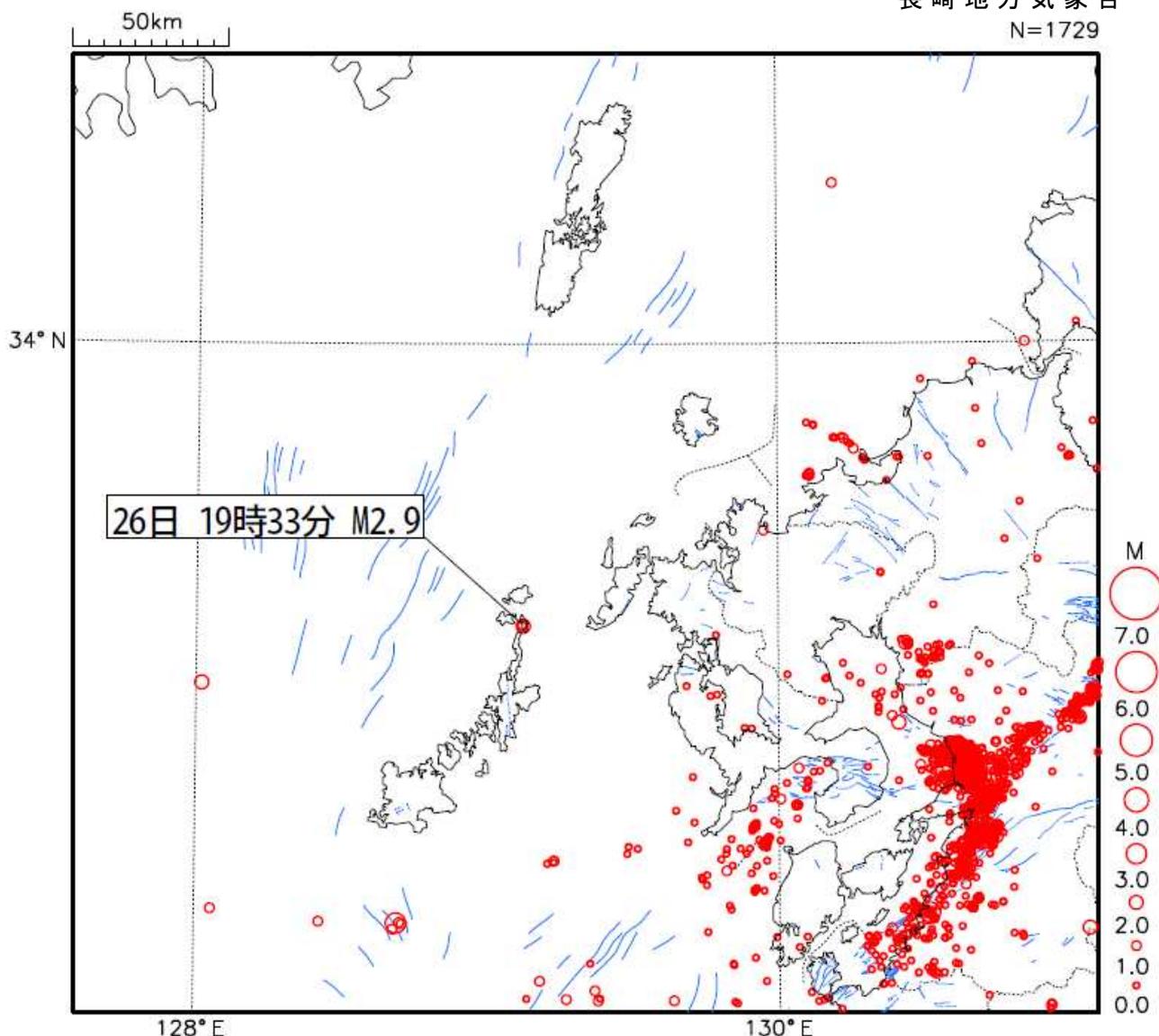


長崎県の地震活動概況 (2017年11月)

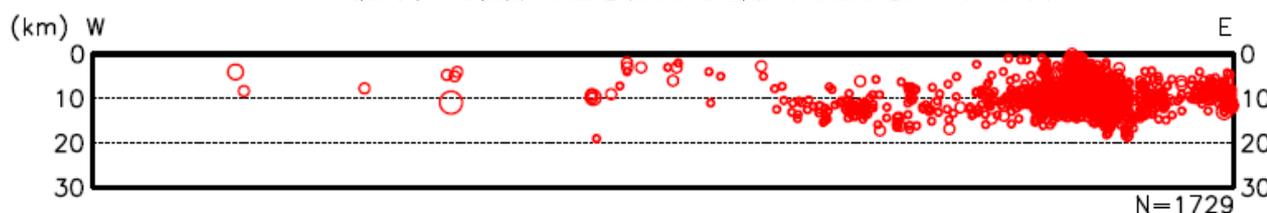
平成29年12月8日

長崎地方気象台

N=1729



震央分布図 (2017年11月1日~30日、深さ30km以浅)
(長崎県内で震度1以上を観測した地震に吹き出しを付けています)



断面図 (2017年11月1日~30日、深さ30km以浅)
(震央分布図を南の方から見た断面図です)

※ 本資料の震央分布図の青色のラインは活断層を示す (活断層のデータは新編日本の活断層による)。
※ 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点 (河原、熊野座)、米国大学間地震学研究連合 (IRIS) の観測点 (台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東) のデータを用いて作成している。

地震活動の概況 (2017年11月)

11月に長崎県内で震度1以上を観測した地震は2回でした(10月:3回)。震央地名は朝鮮半島南部(1頁震央分布図領域外)、五島列島近海でした。詳細は以下のとおりです。

朝鮮半島南部(1頁震央分布図領域外)※

15日14時29分に朝鮮半島南部で発生したM5.6の地震により、長崎県で震度2を観測したほか、九州地方、中国地方の一部で震度1を観測しました。長崎県では対馬市で震度2を、松浦市で震度1を観測しました(図1)。今回の地震の震央周辺では、2016年9月12日19時44分に発生したM5.2の地震により長崎県対馬市で震度2を、同日20時32分のM5.8の地震により対馬市で震度3を観測しました(図2)。

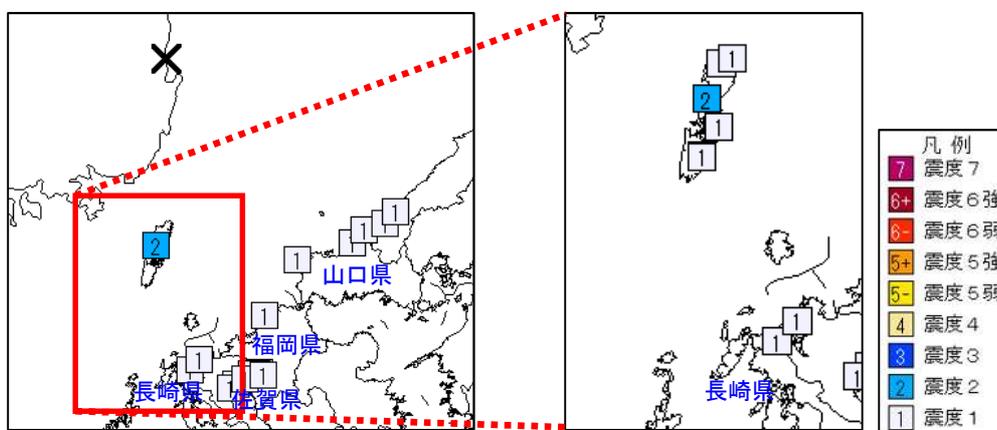


図1 震度分布図 (左図は市区町村別、右図は観測点別、×:震央)
11月15日14時29分 M5.6

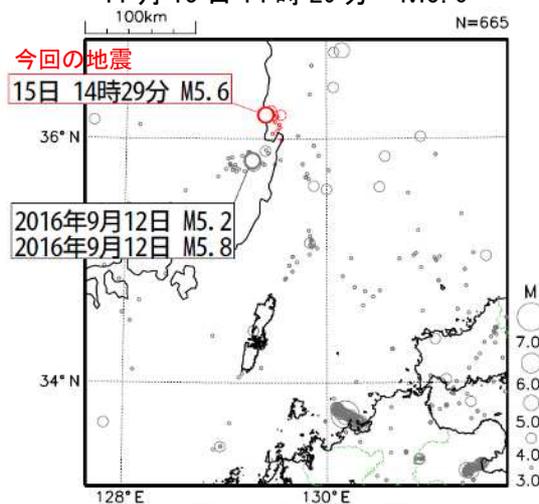


図2 震央分布図
(1997年10月1日~2017年11月30日 深さ0km~60km M≥3.0)
※2017年11月の地震を赤で表示

※本文及び図中の震度は日本国内で観測されたものです。震源要素等は気象庁による。地震発生時刻は日本時間。

表1 この地震により長崎県内で震度1以上を観測した地点

No. 1	2017年11月15日14時29分 朝鮮半島南部 36° 11.7' N 129° 23.6' E 11km M5.6				
長崎県	2	長崎対馬市峰町*			
	1	松浦市志佐町* 長崎対馬市厳原町東里 長崎対馬市美津島町鴨居瀬 長崎対馬市上対馬町* 長崎対馬市厳原町国分* 長崎対馬市上県町佐須奈*			

注1) 震源要素(緯度・経度・深さ・M)は、暫定値であり、データは後日変更されることがあります。
 注2) *を付した地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。
 注3) No. は、時系列順に付しています。

五島列島近海

26日19時33分に五島列島近海で発生したM2.9の地震（深さ10km）により、長崎県の佐世保市（宇久町）、小値賀町で震度1を観測しました（図3）。今回の地震の震源付近（図4領域a）で発生した地震により長崎県で震度1以上を観測したのは、2009年1月17日にM3.5の地震（最大震度1、長崎県は佐世保市（宇久町）などで震度1）以来です（図4、図5）。

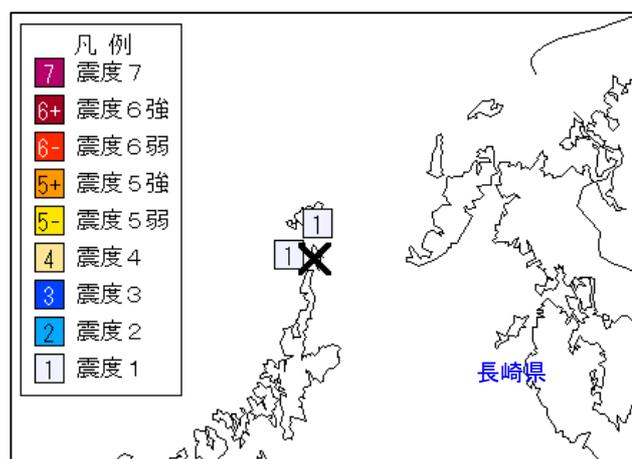


図3 震度分布図
（観測点別、×：震央）
11月26日19時33分 M2.9

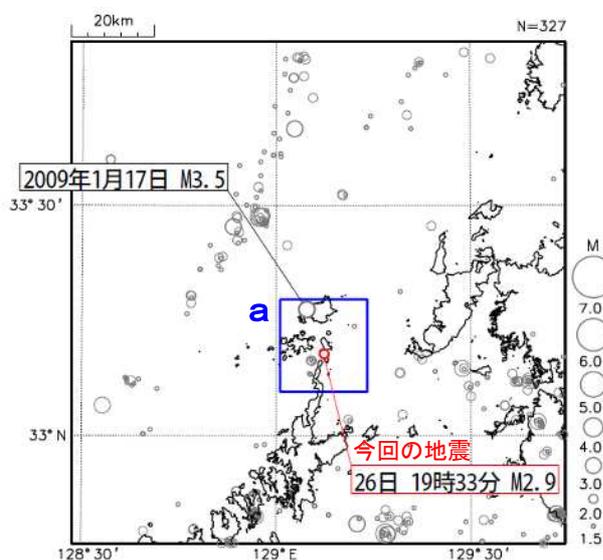


図4 震央分布図

（1997年10月1日～2017年11月30日 深さ0km～30km M \geq 1.5）

※2017年11月の地震を赤で表示

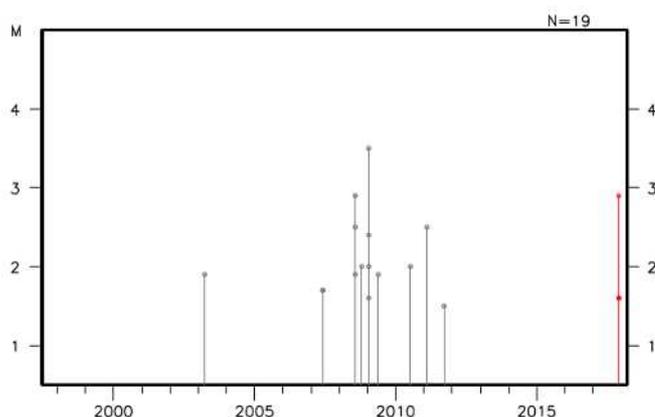


図5 図4領域a内地震活動経過図

表2 この地震により長崎県内で震度1以上を観測した地点

No. 2	2017年11月26日19時33分	五島列島近海	33° 10.7' N	129° 07.3' E	10km	M2.9
長崎県	1	小値賀町笛吹* 佐世保市宇久町*				

注4）震源要素（緯度・経度・深さ・M）は、暫定値であり、データは後日変更されることがあります。

注5）*を付した地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

長周期地震動の予測情報に関する実証実験を行っています

大きな地震では、長周期地震動と呼ばれる周期の長い揺れを伴うことがあります。この長周期地震動は、震源から遠く離れた場所まで伝わり、高いビルなどを長時間揺らします。このような揺れにより家具類の転倒や落下、移動、建物設備に被害が出ることがあります。気象庁では、事前にこのような揺れを知ることによる被害軽減に向けた情報の提供を検討しています。

そこで、気象庁と国立研究開発法人防災科学技術研究所は、**長周期地震動の予測情報を提供する際の課題の抽出や利活用方法の検証を行う**ことを目的に実証実験を実施しております。長周期地震動に興味をお持ちの方のご参加をお待ちしております。すでに現在募集は始まっていますが、先着3,000名まで参加可能です。

【実験期間】：平成29年11月14日～平成30年3月31日（第1期） 今回募集分^{*1}

【参加費】：無料^{*2}（ただし、配信データを受信するための通信費等の費用は参加者負担）

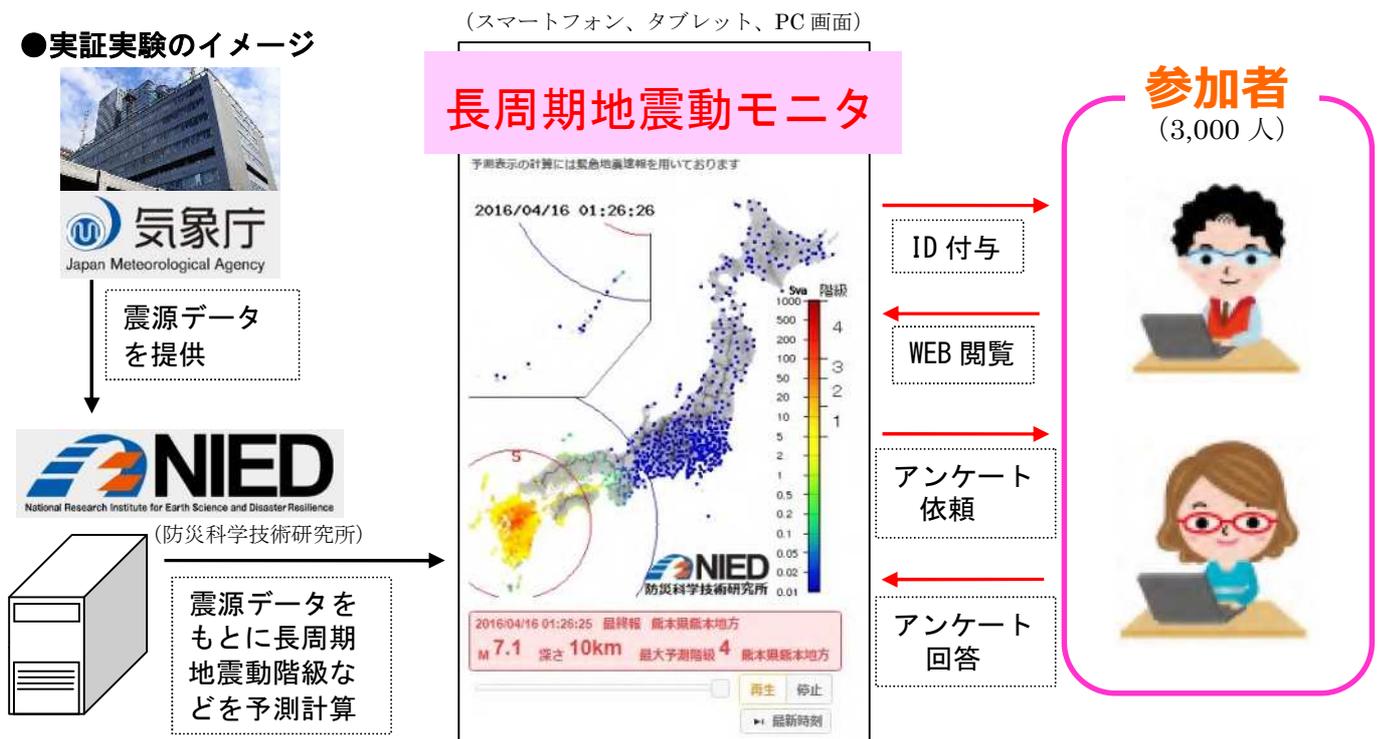
*1 参加者の皆様からご意見をいただいた上で、来年度（平成30年度）中に第2期の実証実験を実施予定です。

*2 「長周期地震動モニタ」はインターネットに接続されているお手持ちのスマートフォンやタブレット、パソコンでご覧いただけます。

【実証実験サイト】：<https://www.lmoniexp.bosai.go.jp/>

左記のサイトより登録、参加者にはアンケートにご協力いただけます。

●実証実験のイメージ



こんな方を募集しています

○長周期地震動とその対策や防災に関心のある方、○高層マンションにお住まいの方、○高層ビルでお仕事をされる方、○高層ビルが多い地域にお住まいの方、などのご参加をお願いいたします。

◆気象庁ホームページ内のお知らせサイト

http://www.jma.go.jp/jma/press/1711/10b/ltpgm_exp20171110.html

※H29. 11. 10 気象庁報道発表資料に一部加筆